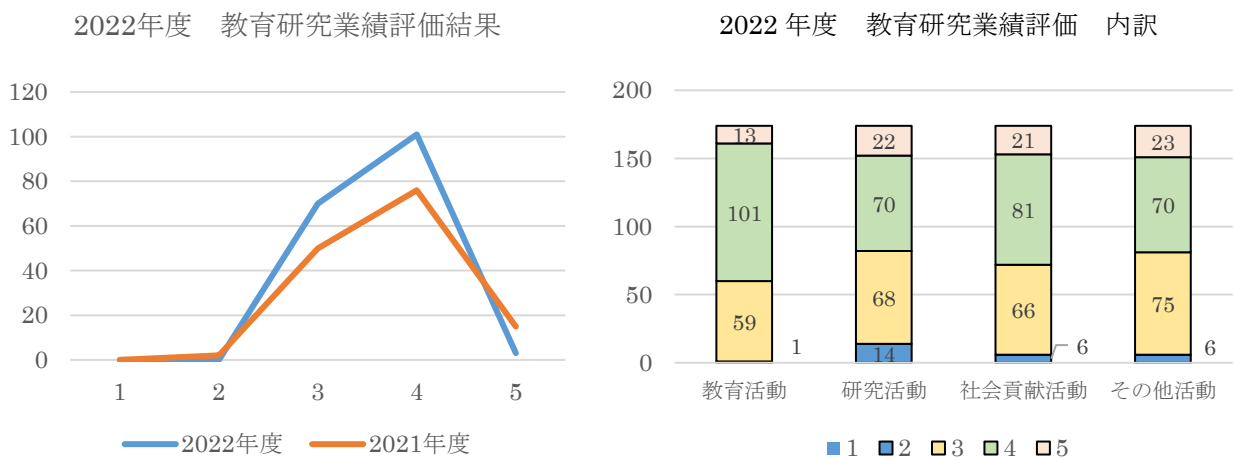


2022 年度教育研究業績評価（活動対象 2022 年度）の結果について

副学長 金政 祐司

2022 年度の教育研究業績評価は、2021 年度に引き続き、教育活動・研究活動・社会貢献活動・その他活動の 4 つの領域において、各教員により重点比率及び目標を設定したうえで、その目標に対する達成度に応じて所属長による 5 段階で評価を行った。

2022 年度教育研究業績評価（活動対象 2022 年度）についての結果を以下のとおり報告する。



左の表は教育研究業績評価結果における 2022 年度と 2021 年度を比較した折れ線グラフである。昨年度に引き続き、4「優れている」・3「良好」の割合が高い。

右の表は教育研究業績評価における領域ごとの内訳である。

全体的には、目標を上回った結果を示す 4「優れている」が最も高い割合を示した。

また、活動領域毎の結果として、

- ・ I.教育活動領域は、4「優れている」・3「良好」の合計が全体の約 9 割となった。
- ・ II.研究活動領域は、4「優れている」・3「良好」での合計が全体の約 8 割となった。
- ・ III.社会貢献活動領域及びIV.その他活動領域も同じく、4「優れている」・3「良好」の合計が全体の約 8 割となった。

2022 年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大はあったものの「リモート授業」と「対面授業」を併用したハイブリッド型の授業展開を行い、それぞれのメリットを生かしながら教育の質向上に努めることができた。引き続き、さらなる研鑽により教育研究水準の向上に向けた取り組みを継続し、新たな教育展開の実現を目指す。

以 上